

6 地域の子ども、みんなの子ども ～地域でできる子育て世代の支援～

見守り世代が自分達の子ども時代にあった地域の行事や人との関わりを振り返りながら地域のもつ役割について改めて考える。

地域の関わりが薄れている現状の中で、どのような行動が子育て支援につながるのかをみんなで考える。

目安時間	80分	手法	ディスカッション、ラベルワーク
準備するもの	ワークシート、模造紙、ふせん紙、資料、筆記用具		
想定する学習機会	高齢者学級、家庭教育講座 等		

見守り

ワーク1 地域における行事の今と昔の変化を話し合う (10分)

自分達が子どもころの地域の行事と現在の行事を比べて、変わってしまったことを中心に意見交換をする。

引き出したい意見

- ・伝統的な行事が廃れている。・子どもが関わる行事が減った。・行事に関わる大人が減った。
- ・子ども会の行事がイベント化している。・地域のラジオ体操がなくなった。 など

ワーク2 見守り世代が地域で育まれたことについて振り返る (20分)

①子どもの時に自分の親以外の大人からしてもらったり、教わったりしたことを書き出す。

引き出したい意見

- ・悪いことをしたとき叱られた。・お手伝いをしてお小遣いをもらった。
- ・おやつをもらった。・親子のように接してもらった。 など

②グループ内で意見交換し、印象に残った言葉やキーワードになりそうなことを話し合う。

ワーク3 自分達ができる子育て世代への支援を考える (40分)

ワーク1、2から以前の子どもたちは家庭だけでなく地域からも多くのことを学んだり、支えてもらったりしていたことを改めて確認し、今後、見守り世代として自分達はどんな役割を果たしていくべきか考える。

①自分達が果たしていくべき役割について、ふせん紙に記入する。

声かけ例

- ・1枚のふせん紙にはひとつのアイデアを書いてください。
- ・質より量です。思いついたことをどんどん書いてみましょう

②それぞれが考えたアイデア（ふせん紙）を、すぐできること、時間がかかること、個人でできること、個人では難しいことに分け図を完成させる。

③グループ間で意見を共有する。

まとめ・ふりかえり (10分)

資料「地域で子育てを支えるために重要なこと」と自分たちの考えを比べてみる。

- ☑子育て世代に対して地域が果たしてきた役割について振り返ることができたか。
- ☑自分達ができる子育て世代への支援を考えることができたか。

ワーク1 「地域の行事今昔物語」

自分達が子どもころの地域の行事と現在の行事を比べて、変わってしまったことを書いてみましょう。

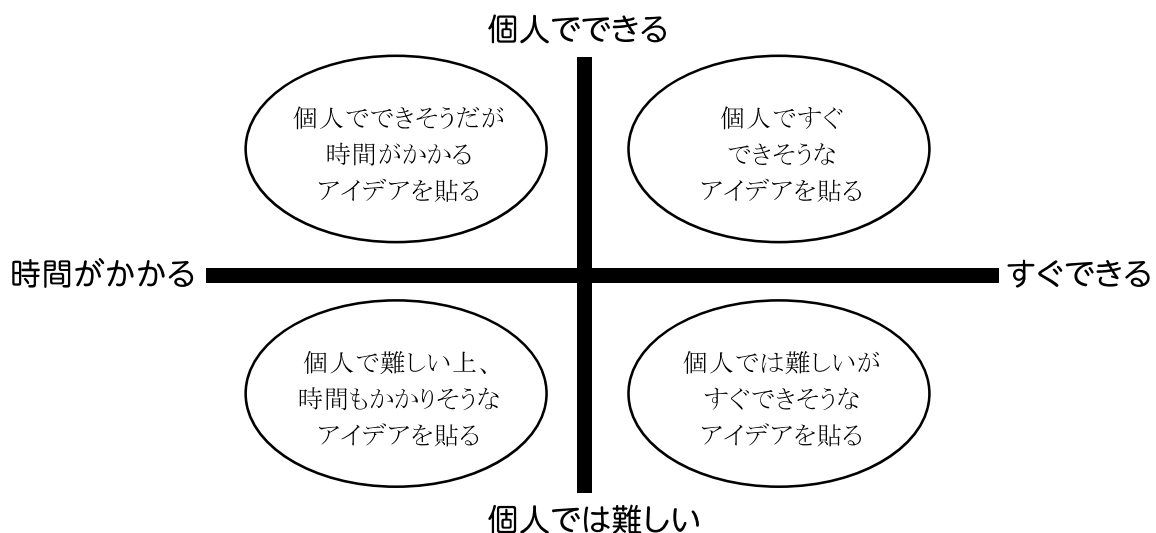
ワーク2 「地域で育まれた私たちの〇〇」

子どもの時に自分の親(保護者)以外の大人からしてもらったり、教わったりしたことを書き出してみましょう。

ワーク3 「自分達ができる子育て世代への支援について考えよう」

- ①自分が行っていくべき支援をふせん紙1枚につきひとつ書きます。
とにかく多くのアイデアを出しましょう。「質より量」です。
- ②それぞれが考えたアイデア(ふせん紙)を、「すぐできること」「時間がかかること」「個人でできること」「個人では難しいこと」に分け模造紙に貼っていきます。

【模造紙まとめ方例】



まとめ・ふりかえり

自分たちが出来る子育て世代への支援について考えることができましたか。
ぜひ実践してみたいことがあったら書いてみましょう。

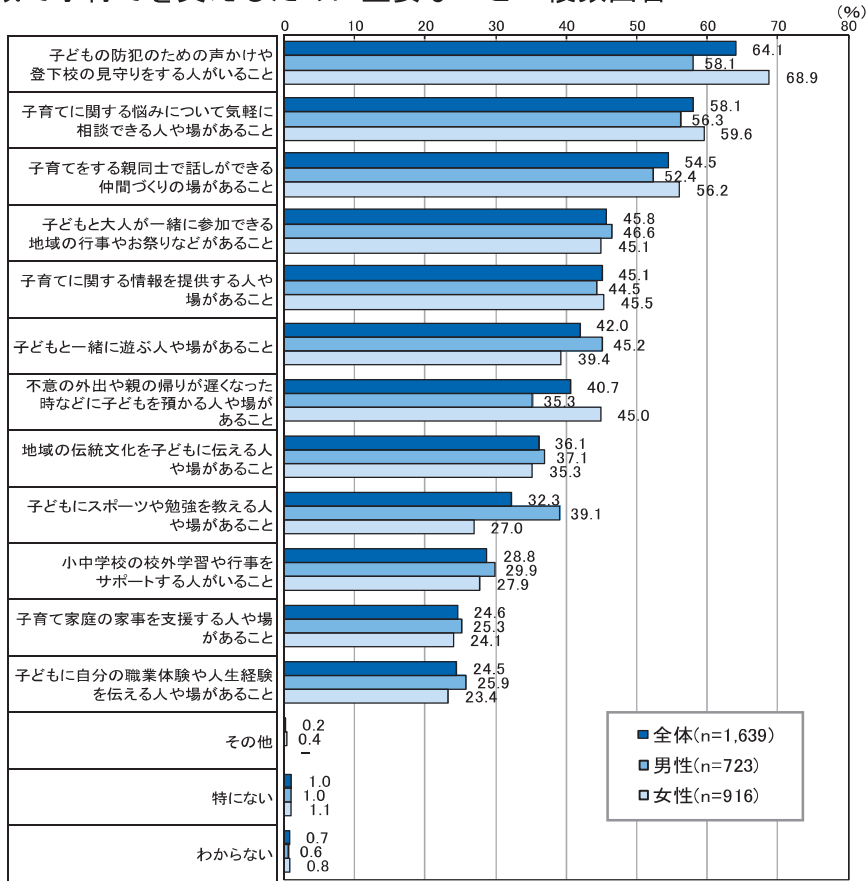
【資料】

下のグラフは、内閣府が平成 25 年度に実施した「家族と地域における子育てに関する意識調査」からの抜粋です。

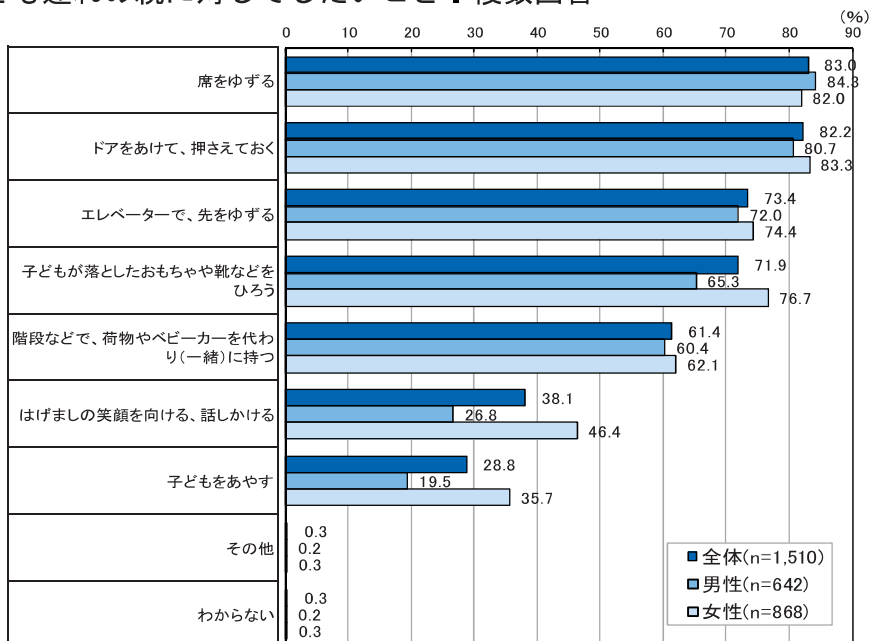
自分達が考えた意見と比較してみましょう。

「地域での子育て支援環境づくりについての意識」

1 地域で子育てを支えるために重要なこと：複数回答



2 子ども連れの親に対してしたいこと：複数回答



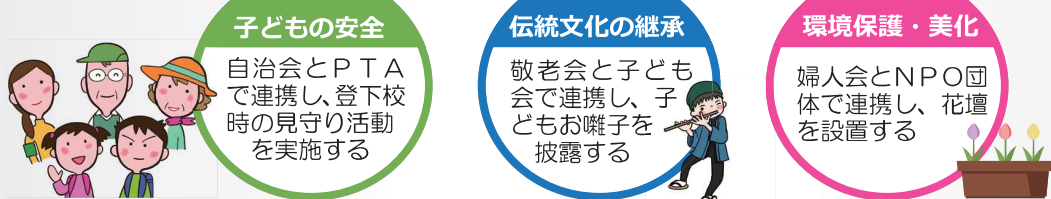
内閣府「平成 25 年度家族と地域における子育てに関する意識調査」2014

コラム「地域課題解決に向けた連携づくり」

地域課題は、住民や地域の状況によって様々なものがありますが、多くの人が課題に感じているものもあれば、まだ誰も気付いていないものもあります。課題によっては、個人のつながりだけでは解決できない場合があるかもしれません。

そこで、社会教育関係団体、自治会等コミュニティ関係団体、子育て関係団体、NPO 団体といった「地域活動実践団体」が連携し、住民の理解促進や認識の共有化を働き掛けながら課題解決を図ることも重要ではないでしょうか。

【団体の連携の例】



【行政の連携の例】那須塩原市の家庭教育支援と子育て支援の連携した取組(母親学級における親学習)

「うん、そうそう!」「あるある!」。

おしゃべりの途中から笑顔とともに聞くことのできる言葉です。生涯学習課では健康増進課が主で行う「母親学級」で年4回親学習プログラムを実施しています。母親学級は、以下を目的として実施しています。

- ① 妊娠・出産・育児に関する正しい知識を提供する。
- ② 赤ちゃんとの生活をイメージすることで、親となる心構えを学習し、安心して育児ができるようにする。
- ③ 妊婦が不安や孤立感なく妊娠から育児期を過ごせるよう、また乳幼児虐待防止につながるよう支援する場とする。

初めは緊張気味の妊婦さん。グループに分かれて、日頃思っていることや感じていることを自由に話してもらいます。話し合いのテーマは「出産後の生活をイメージしよう」で、出産を控えた妊婦さんを対象に、出産への不安解消やお互いのネットワークづくりを目的としています。親学習の前段で保健師や栄養士、歯科衛生士の話があり、妊娠中や産後に気をつけなければいけない予備知識を得た上でのおしゃべりの場となっています。

ここ数年はパートナーの参加も多くなりました。妊婦さんとは別のグループをつくり、日頃の悩みや出産後にどのような関わりができるか等の話題を共有しています。



【親学習の様子】



出産について不安な事が多くありましたが、グループのお母さんたちとたくさんお話をすることができて、不安に思っているのは私だけではないことが分かり安心しました。



パパとなる人とあまり話す機会が無かったので、不安なことや楽しみなこと、準備がどこまで終わっているかなどとても楽しく話すことができました。(パートナーより)

【参加者のふりかえり】

年度末に健康増進課と生涯学習課担当職員で次年度に向けての打合せを行います。妊婦さんやパートナーにとって、楽しく爽やかな親学習となるよう、毎年改善を加えての実施となっています。



生涯学習課と連携して(健康増進課保健師)

- ・座学だけではなく動きがでることで(アイスブレイク・ワークショップ)参加者が飽きずに取り組むことができるようになりました。
- ・それまでは妊娠期、出産、産後1~2か月の期間に着目した内容でしたが、親学習を取り入れたことで、妊娠から出産、子育て期を通して広い視野で今後のライフステージをイメージするきっかけとなりました。
- ・保健師ではない生涯学習課の職員が講義をすることで、新鮮な気持ちで話を聞いてもらえるようになりました。



【休憩時間でのオムツ替え体験】

7 今のままでダイジだよ

※ダイジ→栃木の方言で「大丈夫」を表す言葉

～子育ての悩み、あなたならどう声かけしますか～

「チクチク言葉とわくわく言葉」から言葉のもつ重みを体験するとともに、子育て中の親が抱えている悩みを軽減するためには、周囲の理解ある声かけや行動が必要であることを知る。

事例をもとに、見守り世代としてどんな声かけや行動が子育て世代の不安軽減につながるかを考え、それを実演することをとおして、相談者に寄り添う方法を学ぶ。

目安時間	80分	手法	カードワーク、ロールプレイ
準備するもの	ワークシート、悩み相談カード、資料、筆記用具		
想定する学習機会	高齢者学級、家庭教育講座 等		

ワーク1 「チクチク言葉とわくわく言葉」を体験する（10分）

- ①二人組になり、一人は椅子に座り目をつぶる。もう一人は、背後に立ち言葉をささやく。
- ②初めにチクチク言葉を20秒間投げかける。次にわくわく言葉を30秒間投げかける。（必ずわくわく言葉が後になるようにする。）
- ③聞き役と声かけ役を交代し、②を行う。
- ④お互いにそれぞれの役をやってみた感想を交換する。（全体で共有できるとさらに深まる）

ワーク2 相談に対してどんな声かけや行動ができるか考える（40分）*20分×2

- ①悩み相談カードから無作為に選び、相談者に寄り添った声かけや行動をグループで考える。
声かけ例 エピソード中の親の批判ではなく、親が安心できるような声かけや行動を考えてください。
- ②グループ内で、「子育ての悩みを相談する役（1名）」、「相談を受ける役（1～2名）」を決め、①で出てきた意見をロールプレイする。残りのメンバーは「観察者」となり全体を見る。
- ③それぞれの立場での感想を交流する。
声かけ例 親が安心できるような声かけや行動になっているかという視点で感想交流してください。
- ④①～③を繰り返す。

ワーク3 言葉かけ・行動のキーワードを考える（20分）

ロールプレイでの実演、話し合いから、相談者が明日からも子育てを頑張ろうと思えるような声かけや行動の「キーワード」をまとめる。

声かけ例

子育て世代の親が、今のままでいいんだ、もう少し頑張ればいいんだ、明日からの子育てを頑張ろうと思えるような声かけや行動の「キーワード」をみなさんと考えてください。

引き出したい意見 ・受け入れる・寄り添う・ポジティブな声かけ・相手を尊重したアドバイス 等

まとめ・ふりかえり等（10分）

資料「ある母の手記から」を読んでまとめとする。

- 周囲の理解ある声かけや行動が、子育て世代にとって悩みや負担の軽減につながる分かったか。
- 子育て中の親に寄り添う声かけや行動、キーワードを考えることができたか。

ワークシート「今のままでダイジだよ～子育ての悩み、あなたならどう声かけしますか～」

ワーク1 「チクチク言葉とわくわく言葉」を体験しましょう。

チクチク言葉

どんな子育てしているんだか
親の顔が見たい
ほんとひどいわね
何を考えているんだか
親が親なら子どもね
あなたのせいね
甘やかしているからすぐ泣くよね

わくわく言葉

大丈夫だよ
頑張っているね
心配ないよ
いい子に育ってるね
ママ(パパ)の育て方がいいんだね
こんなことよくあることだよ
何か困っていることある？
順調だね

ワーク2 「みんなの相談室～こんな時あなたならどんな声かけや行動をしますか？～」
声かけや行動について考えてみましょう。

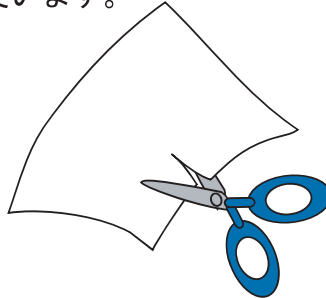
- ①グループの中で、無作為に1枚の「悩み相談カード」を選びます。
- ②カードに書かれていることを読み、その内容に応じて、自分達の経験をもとにしたアドバイスや行動をみんなで考えます。
☆考えや行動を批判するのではなく、相談者が明日からの子育てを頑張ろうと思えるような声かけや行動を考えましょう。
- ③子育ての悩みを相談する役(1人)、相談を受ける役(1～2人)、観察者(残り)を決め、①で選んだカードの内容と、みんなで考えた声かけや行動をもとに、実演(ロールプレイ)してみます。
- ④それぞれの立場で感じたことを出し合い、適切な声かけや行動になっているかふりかえります。
*①～④を繰り返します。

ワーク3 子育て世代が、今のままでいいんだ、もう少し頑張ってみようと思えるような、声かけや行動のキーワードを考えてみましょう。

まとめ・ふりかえり

子育て中の親に声かけをするときどんなことを心がけたいですか。また、どんな行動に努めたいですか。

【悩み相談カード】

<p>うちの子どもは毎日夜泣きが止まりません。イライラして、つい「うるさい」と大声をあげてしまいます。いつも大声を出した後後悔します。</p>	<p>うちの子どもはまだ寝返りをしません。スマホで調べたところ、うちの子と同じくらいでハイハイをする子もいるとのこと。うちの子はどこかおかしいのでしょうか。</p>	<p>現在母子家庭で2人の子どもを育てながら仕事をしています。食事だけは一緒にと思っているのですが、仕事で疲れていると、平日の食事は出来合いのものになってしまいます。毎日自己嫌悪に陥っています。</p>
<p>共働きで、母親が帰るまで小学生だけで過ごさせています。夕方帰っても夕食の準備など家事をこなすことで手いっぱいです。愛情不足にならないか心配です。</p>	<p>中学3年生の娘がいます。家に帰ってくるといつもスマホをいじっています。ちょっと注意をするとすぐに不機嫌になります。嫌がられても子どものためと思い注意してしまいます。</p>	<p>中学2年生の息子がいます。最近は反抗期なのか、何を話しかけても「うざい」「うるせえ」などの言葉が返ってきます。私の子育てが間違っていたのでしょうか。</p>
<p>高校生の娘をもつ父親です。以前と比べると会話がめっきり減りました。最近は父親を避けるようにさえ思えます。声をかけられるのは何かしてもらいたいときのみ。とても寂しいです。</p>	<p>子どもは高校生になるので自主性を尊重してあげたいと思うのですが、毎日の生活を見ているとついつい小言が出てしまいます。本人なりにはいろいろ考えているようなのですが・・・</p>	<p>●使い方● この「悩み相談カード」は、コピーしたものを点線で切り取ってから使います。</p> 

【資料】

ある母の手記から

子育て真っ只中のママは、誰かに頑張りを認めてもらう機会はあるでしょうか。

もちろん、誰かに認めてもらうために子どもを育てている訳ではありませんが、「頑張っているね」「いい子に育てている」「ママの育て方がいいね」等の言葉があれば、より一層子育てを頑張るエネルギーにつながるように思います。

家事をし、仕事をし、子育てをしているママ。自分の時間を犠牲にしても文句も言わずバタバタと過ぎ去っていく日々…。夜泣きが激しくてゆっくり寝られなくても、あちこち動き回る子どもに手を焼いていても、トイレにまで付きまといられる事も、子育てにおけるすべての事は「母親ならば当然」の事。

「いつも子育て頑張ってるね」なんて言われる事はほとんどありません。

子どもを育てる事は楽しい事も多いですが、常に付きまとう「これでいいのか？」という漠然とした不安もあります。

不安に思っているときほど、子どものけがやトラブルが起きるものです。

ただでさえ、心配な気持ちを抱え、落ち込んでいる時に、そのことに対してまわりから追い打ちをかけられることも・・・

さらに凹みます。

母親ならばやって当然の子育てですが、認められることよりもダメ出しをされてしまうことの方が多くなるような気がします。

(心の声)

「不安な気持ちや頑張りを受け止めてくれるだけで・・・」

8 考えてみよう！インターネットとスマホの光と影

スマホやタブレットの普及を背景とし、大人も子どももインターネットを利用する機会が増えている。子育て世代の親や子どものスマホの利用状況など、現代的な課題について理解するとともに、そのような課題を抱える親や子どもに対する関心をもち、直接の関わりをもつことの大切さについてみんなで考える。

目安時間	60分	手法	〇×クイズ、ディスカッション
準備するもの	ワークシート、筆記用具、資料		
想定する学習機会	家庭教育講座、PTA研修会、青少年健全育成研修会、自治会研修会等		

見聞

ワーク1 子育て世代の親や子どものインターネット利用の現状について考える。(15分)

〇×クイズをとおして、子育て世代がおかれているインターネット利用の現状について知り、それぞれの課題について考える。(クイズの答えは、全て〇。)

確認したい事項

- ・インターネットの利用は、ほとんどがスマホで行われている。→大人の目がとどきにくい。
- ・子育て世代や子どもにとって、インターネットは身近で、長時間利用している。
- 好きな情報だけ収集しがちで、子どもの利用の課題について、大人が関心をもつ必要がある。

ワーク2 スマホやインターネットの利用で起きる問題点について話し合う。(15分)

子育て世代の親や子どもがスマホやインターネットの誤った利用を続けることで、生活にどのような問題が生じるかについて考え、グループで話し合う。

引き出したい意見

- ・生活リズムの乱れ
- ・不登校
- ・対面コミュニケーション力の低下
- ・愛着障害
- ・視力低下
- ・体力低下
- ・昼夜逆転
- ・ひきこもり など

ワーク3 スマホの利便性と正しい使い方や使用のきまりの重要性を考える。(20分)

表を見て、機器の利便性について知り、子育て世代の親や子どもにとってよりよく使うためには、どんな決まりやマナーが必要か考え、グループで話し合う。また、その理由についても話し合う。

確認したい事項

- ・現代社会においては、使わせない(使わない)という選択は難しいこと。
- ・スマホには便利な機能が多く、子どもたちの安全のために役立つ機能や目的もあること。
- ・現代のコミュニケーションツールとして、上手に使いこなしていくことも大切であること。

まとめ・ふりかえり (10分)

- 考えたことをふりかえり、現代の親や子どもが抱える課題と現状について考え、発表する。
- ☑現代の親や子どものスマホやインターネット使用における問題点について理解できたか。
 - ☑現代の親や子どもが抱える課題について関心をもてたか。

ワークシート「考えてみよう！インターネットとスマホの光と影」

ワーク1 ○×クイズに挑戦し、課題について考えてみましょう。

No.	問 題	○か×
1	青少年の約 80%が、普段からインターネットを利用している。	
2	インターネット利用に一番使われている機器はスマホである。	
3	小中学生のインターネット利用目的は、ゲームや動画視聴が多い。	
4	高校生の 70%以上が、一日 2 時間以上インターネットを利用している。	
5	保護者の約 40%が、一日 2 時間以上インターネットを利用している。	
6	保護者は、青少年のインターネットの過度の利用について関心が低い。	
7	未就学児の 50%以上が 2 歳までに機器の利用を開始している。	

※この○×クイズでは、青少年を満 10 歳～満 17 歳としています。
参考：内閣府「平成 28 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」

ワーク2 子育て世代の親や子どもが、スマホやインターネットの誤った利用を続けると、生活にどのような問題が生じると思いますか。イラストをもとにグループで話し合しましょう。



ネットトラブル



長時間利用



スマホ子守り



のめりこみ

ワーク3 以下は、スマホの便利な機能等を表しています。スマホをよりよく使うために、決まりやマナーが必要なものに○をつけましょう。

スマホの様々な便利機能・使用目的			
電話をする	メール（ライン）をする	情報発信する	
動画を見る	ゲームをする	地図・経路を調べる	
写真を撮る	学習に使う	言葉の意味を調べる	
安全を確保する	友達をつくる	ニュースを知る	

●どんな決まりやマナーが必要か、グループで話し合しましょう。

まとめ・ふりかえり

親や子どもが抱えている課題について、関心がもてましたか。

9 ファミレスで

～あなたに関係ないでしょ!～

外出先で見かける光景を、エピソードをとおしてみんなで一緒に考えていく。周りの大人のちょっとした気遣いが子育て中の親の支えになることについて知り、相手を不快な思いにさせずに、見守り世代の経験を踏まえながら、自分の伝えたいことを伝える表現（アサーティブ）方法を身につけて、誰もが穏やかに過ごせるような雰囲気づくりを促す。

目安時間	80分	手法	エピソード、ラベルワーク
準備するもの	ワークシートA・B・C、筆記用具、ふせん紙、模造紙		
想定する学習機会	まちづくり講座、家庭教育支援関係者研修、シルバー大学講義 等		

ワーク1 エピソードを読み、親子との関わり方について考える（15分）

- ①ワークシートAのエピソードを読んで、走り回っている子どもを注意できない周囲の大人や、店員からの注意を受け入れられない母親について、感想を出し合う。

声かけ例

- ・ どうして、周囲の大人は子どもに直接注意しなかったのでしょうか。
- ・ 母親が、注意してきた店員に対して「あなたに関係ない」と感じたのはなぜだと思いますか。

- ②ワークシートBの「客の発言」を読み、その発言に対して母親はどう感じるかを考える。

ワーク2 相手を不快にさせずに、自分の伝えたいことを伝える技術を学ぶ（25分）

- ①ワークシートBの「アサーティブな表現について」を読み、自分の伝えたいことを、相手を不快にさせずに伝えることの大切さについて知る。
- ②ワークシートCにあるそれぞれの場面では、どういった言葉をかけるとよいか考える。

ワーク3 子育て中の親を支援する大人として、どんな言動ができるか考える（35分）

- ①これまでの生活を振り返り、子育て中の親に対して、気になったけれど声かけや行動ができなかった場面を思い出し、グループで出し合う。
- ②その体験談から一つを選び、模造紙に書き出す。
- ③書き出した場面について、ワーク2で学んだことをもとに、どうしたらアサーティブな表現で気になったことを伝えられるかを考える。ふせん紙1枚に一つずつ記入し、発表しながら模造紙に貼り付ける。似た内容は近くに貼り付け、内容によってグループ分けする。
- ④会場全体で発表し、共有する。

声かけ例

- ・ ここでは、子育て中の親に対する体験談を思い出してください。
- ・ 皆さんの「どうすればいいか分からなかった」「迷っていて、勇気が出ずにできなかった」などの体験談を、グループ内で出し合ってください。
- ・ 相手も自分も尊重した表現になるよう、言葉かけや行動の内容を考えてください。

まとめ・ふりかえり等（5分）

今回の活動をとおして感じたことをグループ内で発表したり、全体で共有化したりする。

- ☑子育て中の親をあたたかく支援していくためには、それぞれが、一人の地域住民としてできることがあるということに気付いたか。
- ☑相手を不快な思いにさせずに、伝えたいことを伝える表現方法についてわかったか。

ワークシートA「ファミレスで～あなたに関係ないでしょ!～」

エピソード

ファミレスでの出来事です。

お客さんの中に、大きな声で騒いでいる兄弟とそれを注意しない母親がいます。店内には「全く迷惑な親子だ」という雰囲気があります。

とうとう店員が子どもたちの母親に声をかけました。

店員：「他のお客様にご迷惑ですので、お子さんを注意してください。」

母親：「あなたには迷惑かけてないし、関係ないでしょ。」

相変わらず兄弟は大騒ぎ、母親は知らん顔です。

すると・・・

客：「」

ワーク1 エピソードを読んで、騒いでいる子どもを注意できない周囲の大人や、店員からの注意を受け入れられない母親について、どう思いますか。話し合ってみましょう。

○ワークシートBの「客の発言」を読んで、母親の気持ちを考えてみましょう。

ワーク2 エピソードの様な場面では、どう言ったら、言いたいことをうまく相手に伝えられるのでしょうか。

①ワークシートBの「アサーティブな表現について」を読んで、考えてみましょう。

②ワークシートCにあるそれぞれの場面について、かける言葉を考えましょう。

ワーク3 これまでの生活を振り返って、子育て中の親に対して、気になったけれど声かけや行動ができなかった場面はありましたか？

①経験談をグループ内で発表し、一つ選んで模造紙に書き出しましょう。

②選んだ場面について、ワーク2で学んだことをもとに、アサーティブな表現を考えましょう。

まとめ・ふりかえり

学んだことをどのように生かしていきますか。

ワークシートB「ファミレスで～あなたに関係ないでしょ！～」

○客の発言（ワーク1）

客：「関係ないわけないだろ！

みんな迷惑しているのが分からないのか、ふざけるな！

だいたい自分の子どもだろ！

他人に迷惑かけないようにしつけるのが親の役目だろ！

注意されなきゃ分からないのか！！」

母親：「うるさいわね！

うちのことに口出ししないでよ！

別に迷惑かけてないでしょ！

あんたも関係ないわよ！！」

○アサーティブな表現について（ワーク2）

人の関係のもち方には、次の3つがあるとされています。

- ①自分のことだけを考えて、他人を踏みにじるやり方⇒攻撃的
- ②自分よりも他者を常に優先し、自分のことを後回しにするやり方⇒非主張的
- ③自分のことをまず考えるが、他者をも配慮するやり方⇒自己主張的

この中では、③がアサーティブな表現方法となります。

※ 「アサーティブ」とは、自分も相手も大切にしたい自己表現のことです。自分の気持ちや考えなどを正直に率直に表現し、相手にも同じように発言できるように雰囲気をつくります。その結果、お互いの意見が葛藤を引き起こすこともあるかもしれませんが、その場合は、お互いの意見を出し合って双方が納得のいく結論をだそうとしていくことです。そして、これらの言動をとおして相互尊重の体験をすることができます。




アサーティブな表現のポイントは、気になっていることを客観的に表現し、自分の気持ちを客観的に説明してから、変えて欲しいことを具体的に提案することです。



ワークシートC「ファミレスで～あなたに関係ないでしょ!～」

○次のような場面では、どういった言葉をかけると、相手に不快な思いをさせずに自分の伝えたいことが伝わるとおもいますか。

空欄に発言を想像して入れてみましょう。

人 場面	怒って一方的に攻撃する感じの人 	弱気で、遠慮して発言しない人 	優しく相手を受け入れるが、自分の伝えたいことを伝える感じの人 
自宅近くの道ばたで車座になって長い時間、大声で話している子どもたちがいます。	「うるさい！」 「邪魔だ！」 「誰に許可取ってここにいるんだ！」 「あっちへ行け!!」	「・・・」 (住民の迷惑だよなあ…。でも楽しそうだから何も言わない方がいいのかな。。)	「楽しそうに話をしているね。たくさん話をしたいことがあるんだね。」 「でも、ここは道路だから、車が通ったり自転車が通ったりして危ないよ。」 「公園や他の場所で話をしたらどうかな？」
静かな図書館で本を読んでいたところ、子どもがやってきて、大声で騒ぎながら本棚の間を走り回っています。	「うるさい！」 「静かにしろ！」	「・・・」 (うるさいなあ。気が散るけど、子どもが帰れば静かになるだろう…。)	発言を想像してみましょう。
散歩をしていたところ、前を歩道の幅いっぱい歩いている数人の子どもたちに出会いました。	「オイ、邪魔だ！」 「どけどけ！」 「通れないだろ！」	「・・・」 (急いでいるのに、通れなくて困ったなあ。もう少ししたら曲がるから、それまでがまんしよう。。)	発言を想像してみましょう。

10 気になる子どもを見かけたとき、 あなたならどうしますか？ I

青少年の安全や健康を考えれば深夜の外出はよくない。しかし、様々な事情により夜遅くに外出せざるを得ない青少年がいる。このようなことをエピソードをとおして確認し、深夜に外出する青少年に対して偏った見方が自分の中になかったか振り返り、気になる子どもを見かけたら、大人としてどう関わっていったらよいか、みんなで話をしながら考えていく。

子育て

見守り

目安時間	90分	手法	エピソード、ラベルワーク
準備するもの	ワークシート、筆記用具、資料、エピソード(2話)、ふせん紙、模造紙、水性ペンセット		
想定する学習機会	家庭教育講座、青少年健全育成に関する研修会、地域懇談会 等		

ワーク1 青少年の現状について確認する (15分)

資料を見て、気付いたことをグループで話し合う。

- ・栃木県青少年健全育成条例について確認する。また必要に応じて刑法犯少年などの説明をする。
- ・補導件数では、「深夜はいかい」が一番多いことを押さえる。

ワーク2 深夜に外出している青少年のイメージを共有する (15分)

エピソード1を読み、声をかけられた青少年はどんな反応をするか考え、意見交換する。

- ・ここでは深夜に外出する青少年のマイナスイメージが話題となっていてよい。

ワーク3 青少年の深夜外出事情は様々であることに気付く (15分)

エピソード2を読み、深夜外出の背景には、「深夜外出＝不良」とひとくくりにできない複雑な事情を抱えている青少年がいることについてグループで意見交換する。

- ・エピソード2の青少年が抱える事情をワーク2で出されたイメージと比べ、深夜に外出する青少年に対して抱いていたイメージが偏っていなかったかどうか、これまでの自分を振り返るようにする。
- ・コラムを読み、家庭への働きかけや支援の必要性についても配慮しながら、深夜に外出する青少年にかかわる大切さを確認する。

ワーク4 気になる子どもを見かけたとき、地域の大人はどう関わったらよいか考える (30分)

気になる子どもを見かけたとき、地域の大人はどう関わっていったらよいか、ラベルワークをとおして考える。

Step-1

深夜外出だけでなく、気になる子どもを見かけたら、地域の大人はどう関わっていったらよいか、ふせん紙に一つずつ書き出す。

Step-2

書き出したものを、順番に読み上げながら模造紙に貼る。似たような内容のものは近くにまとめ、最後にまとまりにタイトルをつける。

注意!



複数人数の青少年による夜遊び・喫煙・飲酒等の行為について、直接的な表現で注意すると思わぬ事態が生じる可能性があることを確認する。

まとめ・ふりかえり (15分)

気になる子どもを見かけたとき、自分はどのような対応ができるか振り返る。

- 深夜外出の背景には、家庭の様々な事情があることを確認することができたか。
- 気になる子どもを見かけたとき、一人の地域住民として自分はどのように対応することができるか、考えることができたか。

ワークシート「気になる子どもを見かけたとき、あなたならどうしますか？Ⅰ」

ワーク1 資料「青少年の現状を見てみましょう」を見て、気付いたことを話し合きましょう。

深夜外出等の制限

栃木県青少年健全育成条例では、午後11時から翌日の午前5時までを深夜とし、「保護者は、特別の事由がある場合を除き、深夜に青少年を外出させないよう努めなければならない。」「何人も、正当な理由がある場合を除き、保護者の委託又は承諾を得ないで、深夜に、青少年を連れ出し、同伴し、又はとどめてはならない。」「深夜に営業を営む事業者及びその代理人、使用人その他の従業者は、深夜(その営業時間帯に限る。)に、当該営業に係る施設内又は敷地内にいる青少年に対し、帰宅を促すように努めなければならない。」と定めています。

ワーク2 エピソード1〈別紙〉を読んで、どんな言葉や反応が返ってくるか自分なりに想像しましょう。そして伝え合きましょう。

ワーク3 エピソード2〈別紙〉を読んで、感想を自由に伝え合きましょう。

ワーク4 気になる子どもを見かけたとき、大人としてどのように関わっていったらよいか、話し合きましょう。

①個人で 理想とする関わり方をふせん紙に一つずつ書き出してみましょう。

②グループで 書き出したものを、模造紙に貼っていきましょう。まとまりにタイトルをつけましょう。

まとめ・ふりかえり

気になる子どもを見かけたとき、あなたはどのような対応ができますか。

エピソード1 いつものコンビニに立ち寄ると…

金曜日の夜 11 時ごろ、仕事帰りにいつものコンビニに立ち寄ると、近くの中学校の男子 2 名がそれぞれの自転車にまたがって、菓子パンを食べているのを見かけた。心配になったので、勇気を出して声をかけてみると…

どんな言葉や反応が返ってきたか想像して書きましょう。いくつ書いても OK です。



----- 切り離して別々にお配りください。 -----

エピソード2 いつものコンビニに立ち寄ると…

金曜日の夜 11 時ごろ、仕事帰りにいつものコンビニに立ち寄ると、近くの中学校の男子 2 名がそれぞれの自転車にまたがって、菓子パンを食べているのを見かけた。心配になったので、勇気を出して声をかけてみると…

少年 A 「そんなこと言われたって、しょうがないんすよ。家に親父の彼女が来てて、居づらいんすよ。それに、夕飯出てこないし、腹も減っちゃって…。それで仕方なくここでパン食おうかなって思ったら、こいつが通りかかって。」

少年 B 「すみません、今まで塾だったんです。授業の後、分からないところを先生に質問していたら遅くなっちゃって。腹減ったなあ～って思いながらこのコンビニの前を通りかかったら、ちょうど友だちがいたもんですから。いけないなと思ったんですけど、つい…。食べ終わったらすぐ帰りますんで。すみません。」

少年 A 「オレも食ったらすぐ帰るっすから、学校には言わないでくださいよ。親父にばれるとぶん殴られるんで…。それに、こいつはオレが誘ったんで悪くないっすから。」 「はあ。帰りたくねーなー。お前んちはいいよな…。」 ポソポソ…

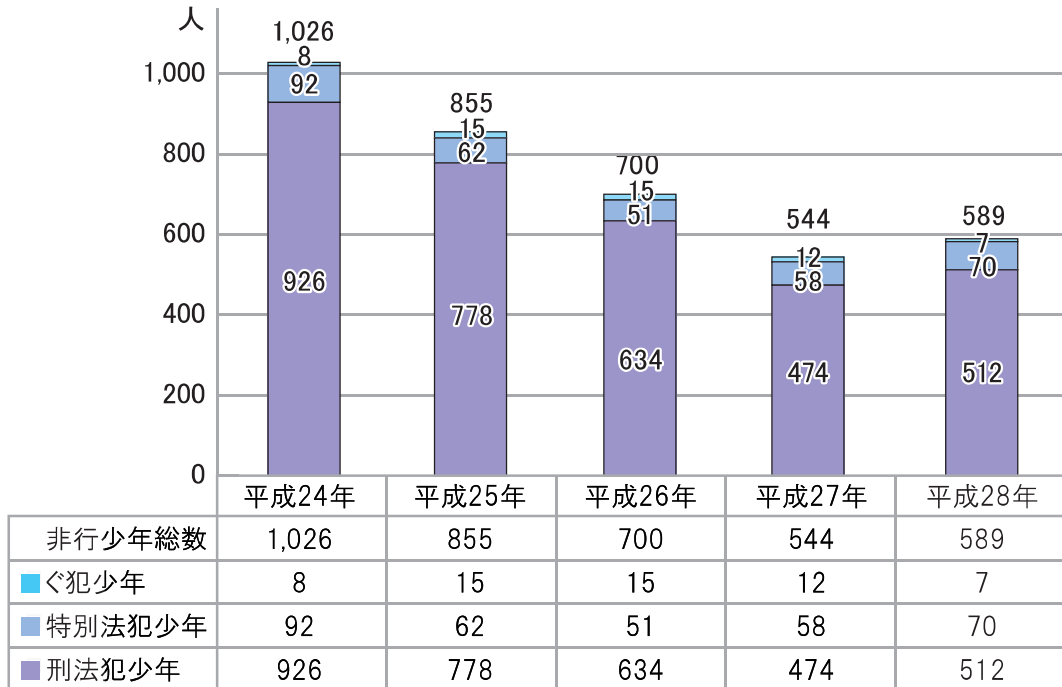
と言っていた。

買い物を終え、そのまま帰って来てしまったが、自分はどうしたらよかったのか…。

【資料】

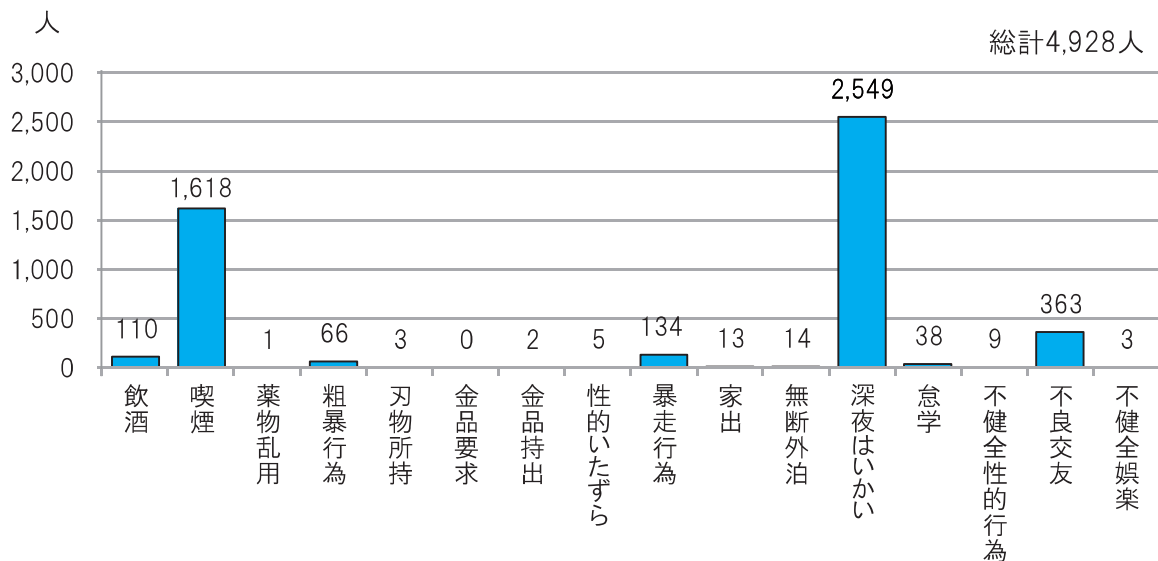
青少年の現状を見てみましょう

図1 少年非行の概要



※ぐ犯少年とは、将来、犯罪行為をするおそれがあると特に判断される少年
 ※特別法犯とは、刑法犯以外の犯罪（道路交通法違反、覚せい剤取締法違反、売春防止法違反など）
 ※刑法犯少年とは、法律で規定されている犯罪で警察に検挙された14歳以上、20歳未満の少年

図2 不良行為少年の補導状況



※補導とは、青少年たちが悪い道に進まないように警察が注意したり、親や学校に連絡したりすること

参考：栃木県警察本部「平成28年中における少年非行の概要」<http://www.pref.tochigi.lg.jp/keisatsu/shonen/hikou.html>

11 気になる子どもを見かけたとき、 あなたならどうしますか？Ⅱ

日常生活のいろいろな場面で、気になる子どもを見かける機会がある。子どもたちの健全な育成のためにという思いで、勇気を出して声をかけてみたが…。子どもたちの反応は、大人がかける言葉一つで変わってくるものである。このようなことをエピソードを通じて確認し、具体的にどう言葉をかけるとよいかについてみんなで考える。

子育て

見守り

目安時間	90分	手法	エピソード、ディスカッション
準備するもの	ワークシートA・B、筆記用具、エピソード（2話）		
想定する学習機会	家庭教育講座、青少年健全育成に関する研修会、地域懇談会 等		

ワーク1 子どもたちの反応は、大人がかける言葉で変わることに知ること（30分）

結末の異なるエピソードを読み、大人の声のかけ方によって子どもたちの反応は変わってくることを確認する。

- ・はじめはエピソード1だけを配付し、なぜ子どもたちは声をかけた大人に対して反抗的な態度をとったのか、声のかけ方に着目してグループで考えてもらう。

声かけ例1

なぜ子どもたちは、声をかけた大人に対して反抗的な態度をとってしまったのでしょうか？大人の声のかけ方でよくなかったと思うことを、みんなで話し合ってみましょう。

- ・次にエピソード2を配付し、なぜ子どもたちは先ほどとは違い素直な態度をとったのか、グループごとに考えてもらう。
- ・ここでは、声のかけ方の違いに着目するよう助言せず、グループの話合いの中でこの点に気付いてもらえるよう進められるとよい。

声かけ例2

エピソード2では、先ほどとは違い子どもたちの反応が随分素直でした。なぜ、子どもたちは素直に反応したのか、思ったことを自由にグループで話し合ってください。

ワーク2 声をかけるときに配慮したいことについて話し合う（20分）

「薄暗くなった時間に、中学生の皆さんは、何をしているところなのか」を尋ねる時、伝え方によって反応が変わることがあるというエピソードを参考に、気になる子どもを見かけたとき、大人としてどのようなことに配慮したいと思うか、グループで話し合う。

ワーク3 聞き手が前向きに受け入れてくれる伝え方のコツについて考える（30分）

物事をいろいろな視点からとらえることができれば、相手の気持ちを推測しながら伝えたいことが伝えられることを、ワークシートBでの活動をとおして確認する。その際、別紙参考資料を活用して「リフレーミング」という手法について説明するとよい。

まとめ・ふりかえり（10分）

今日学んだことをどのように生かしていきたいか振り返る。

- 気になる子どもを見かけたとき、どのようなことを配慮しながら声をかければよいか、具体的に考えることができたか。
- 聞き手が前向きに思いを受け入れてくれる伝え方のコツを理解できたか。

ワークシートA「気になる子どもを見かけたとき、あなたならどうしますか？Ⅱ」

ワーク1 エピソード〈別紙〉を読んで、グループで話し合しましょう。

ワーク2 気になる子どもを見かけて声をかけるときに、配慮したいことについてグループで話し合しましょう。

もし自分が声をかけるとしたら、どんなことに気をつけますか？

グループの皆さんから出た考え

ワーク3 ワークシートB〈別紙〉を使って、聞き手が前向きに受け入れてくれる伝え方のコツについて考えましょう。

まとめ・ふりかえり

今日学んだことをどのように生かしていきますか。

エピソード1 ある日の夕方、薄暗くなった頃に

ある日の夕方、ちょっと薄暗くなった頃のこと。自宅近くの児童公園の脇の道を車で通りかかると、数名の中学生が集まっている。よく見てみると、一人の子が四つんばいの姿で囲まれているのが見える。

慌てて車を止め、中学生に声をかけた。

「こらっ、お前たち。こんな時間に何やってるんだ！」

一人の中学生がこちらを見て、

「何でもないっすよ。なあ。」

別の子たちがそれぞれ、

「そう、何でもないし。」

「何あの人？ただ、落とし物を探していただけなのに…。うぜえ〜。」

「だから、あきらめて明日探せって言っただろ。お前のせいで何だか知らないけど関係ない人に怒られちゃったじゃん。」

「ほら、帰るぞ。」

そうして中学生たちは四つんばいになっていた子を立たせて帰っていく。



----- 切り離して別々にお配りください。 -----

エピソード2 ある日の夕方、薄暗くなった頃に

ある日の夕方、ちょっと薄暗くなった頃のこと。自宅近くの児童公園の脇の道を車で通りかかると、数名の中学生が集まっている。よく見てみると、一人の子が四つんばいの姿で囲まれているのが見える。

慌てて車を止め、中学生に声をかけた。

「ねえ、みんな。こんな時間にどうしたの？」

一人の中学生がこちらを見て、

「友だちが落とし物をしちゃったんで、一緒に探していたんです。なあ。」

別の子たちがそれぞれ、

「そう、大事にしているキーホルダーを落としたみたいで。」

「全然見つからないし、暗くなってきたから、またあとで探そうって言ってたところなんです。」

「お前も、今日はあきらめろって。いろんな人に心配かけるだろ。帰るよ！」

そうして中学生たちは四つんばいになっていた子を立たせて帰っていく。

「すみません。ご心配ありがとうございます。」

キーホルダーを落としてしまった子が、こちらを振り返りペコリと…

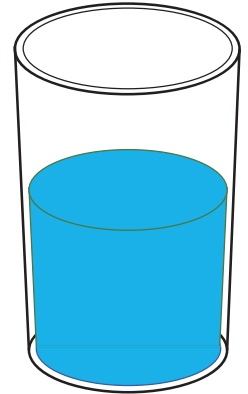
別の視点からとらえてみると

トレーニング1

右下のコップの絵には飲み物が半分位入っています。この状況を説明するとき、聞いた人が全く違う印象をもつような2通りの言い方を考えましょう。

パターン1

パターン2



◇物事の見方を別の視点からとらえなおすことを、

☞ [

] といいます。

トレーニング2

次の3つの事例において、それぞれの子どもの行動をとらえる視点とその視点から生まれる感情は、どのような言葉につながっていくか、子どもの保護者になったつもりで考えてみましょう。

	事例	子どもの行動をとらえる視点 →視点から生まれる感情	子どもにかける言葉
例	保育園に通う長男が、就寝時刻になったのに、笑いながらテレビを見ている。	→ 就寝時刻なのにしている → いつまで見ているんだ → 笑いながら見ている → おもしろいんだろうな	→ 「何時になると思ってるの！早く寝なさい。明日起こしてあげないからね。」 → 「楽しいテレビ番組みたいね。でも、もう寝る時間になりましたよ。」
Step 1	幼稚園に通う長女が、お皿運びを手伝っていたら、落として割ってしまった。	→ お皿を割ってしまった → おっちょこちょいだな → お皿運びを手伝った → 役に立ちたかったんだ	
Step 2	小学1年の長男が、一人で時間割をそろえているが、登校班の集合時刻までぎりぎりだ。	→ 集合時刻までぎりぎりだ → 今頃何やってるんだ → 一人で時間割をそろえた → 言われなくてもできた	
Step 3	全国大会出場を目指す中学3年の長女が、地区の大会で優勝して、県大会出場を決めた。	→ 地区大会で優勝した → すごいね よかったね → 目標は全国大会出場だ → ここからが勝負だね	

参考資料

別の視点からとらえてみると

トレーニング1 ファシリテーター解説

別の視点からとらえてみると

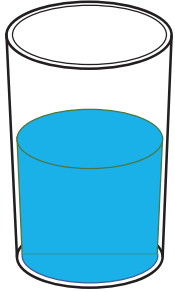
トレーニング1
右下のコップの絵には飲み物が半分位入っています。この状況を説明するとき、聞いた人が全く違う印象をもつような2通りの言い方を考えましょう。

パターン1

回答例 「飲み物がもう半分しかない。」

パターン2

回答例 「飲み物がまだ半分もある。」



◇物事の見方を別の視点からとらえなおすことを、
☞ [**リフレーミング**] といいます。

人は、同じことを見たり、体験したりしていても、それぞれの価値観という枠組み（フレーム）で判断しています。コップに半分位入っている飲み物を見て、いつもは「もう半分しかない」と感じる人も、「まだ半分もある」ととらえなおせば、いつもとは違う前向きな気持ちになれることがあります。このように物事を一つの固まった見方だけでなく、別の視点からとらえなおすことを「リフレーミング」と言います。

「リフレーミング」しても、コップに入っている飲み物の量が変わるわけではありませんし、人や物の短所が長所に変わるというような事実の変化は起こりません。しかし、どのような視点で事実や物事をとらえたかによって、その後につながる私たちの感情や気持ち、そして言葉や行動が変化してくるのです。

「リフレーミング」は、人とのコミュニケーションでとても有効な手段です。物事の見方を「リフレーミング」することで、相手の気持ちや状況を様々な視点から推し量ることができるので、相手に寄り添った言葉や行動を選択しやすくなります。先程読んでいただいたエピソード2は、「薄暗くなった頃に中学生が集まっているのは何か問題を起こしているに違いない」というとらえ方を、「ちょっと待て。ひよっとしたら、何か問題が起こったのかも知れない」というとらえ方に「リフレーミング」した後で、言葉をかけた例です。「何か問題が起きたのかな？」と思えば、「何やってんだ！」とはなりませんね。

「リフレーミング」の技術を有効に使い、相手の気持ちに寄り添ったコミュニケーションがとれるといいですね。

トレーニング2

「かける言葉」の例

↓↓例ですので、この他の考えも尊重してください。↓↓

	事例	子どもの行動をとらえる視点 →視点から生まれる感情	子どもにかける言葉
例	保育園に通う長男が、就寝時刻になったのに、笑いながらテレビを見ている。	→ 就寝時刻なのにしている → いつまで見ているんだ → 笑いながら見ている → おもしろいんだろうな	「何時になると思ってるの！早く寝なさい。明日起こしてあげないからね。」 「楽しいテレビ番組みたいね。でも、もう寝る時間になりましたよ。」
Step 1	幼稚園に通う長女が、お皿運びを手伝っていたら、落として割ってしまった。	→ お皿を割ってしまった → おっちょこちよいだな → お皿運びを手伝った → 役に立ちたかったんだ	「落ち着きがないからそうなるの！」 「何やってるの！よそ見でもしてたんじゃない。仕事が増えるから手伝わなくていい。」 「お手伝いしてくれてありがとうね。でも今度は落とさないように気をつけようね。」 「家族のためにお手伝いしたかったんだね。」
Step 2	小学1年の長男が、一人で時間割をそろえているが、登校班の集合時刻までぎりぎりだ。	→ 集合時刻までぎりぎりだ → 今頃何やってるんだ → 一人で時間割をそろえた → 言われなくてもできた	「今頃何やってるの。早くしなさい。」 「いつもだらだらして。遅刻するよ。」 「前の日にやりなさいって言ってるでしょ！」 「今日は自分でできたね。でも、夜のうちにやったほうがあわてなくていいね。」 「昨日の時間割のまま行かなくてセーフだったね。忘れ物がないようにね。」
Step 3	全国大会出場を目指す中学3年の長女が、地区の大会で優勝して、県大会出場を決めた。	→ 地区大会で優勝した → すごいね よかったね → 目標は全国大会出場だ → ここからが勝負だね	「すごいね。これまで練習を本当に頑張ってきたからね。」 「やったね。あなたが優勝できて、私も本当にうれしいよ。」 「第一関門突破おめでとう。ここからが本当の勝負だね。これからも応援するよ。」 「勝って兜の緒を締める。全国出場が決まったら一緒に喜ぼうね。」



「優勝」は確かに「すばらしい」ことです。しかし、相手の気持ちに共感しないままの、思い込みによるポジティブな言葉かけは、上辺だけの賞賛になってしまうことがあります。

「この子は自分の成果に満足しているのか？」、「この子は新たな目標に向けて気持ちを引き締め直しているのではないのか？」など、相手が本当に分かってほしい気持ちは何なのかを考えるのにも「リフレーミング」は有効であることを確認しましょう。